

ま ち の 話 題

豊 岡

田んぼの学校

春を告げる アカガエルの卵がいっぱい

3月8日、田んぼの学校「アカガエル調査」(コウノトリ市民研究所主催)が県立コウノトリの郷公園で行われ、30人が参加しました。公園内のビオトープ水田では、約500個の卵が見つかりました。アカガエルは、通常1匹が1個の卵を産むので、メスだけで500匹以上いる計算に。本州に住むカエルの中で一番早い時期に卵を産むこのカエルは、乾田化により各地で激減していますが、豊岡ではまだ健在です。オタマジャクシを見て、「ヒジキみたい」という声も聞こえました。調査後にふるまわれた地元野菜と肉入り鍋は好評で、おかわりする参加者もいました。



▲「ほら、そこにカエルの卵がある」「本当だ」親子自然教室の1コマ

城 崎

スナッピンきのさき

城崎温泉の思い出に 写真はいかが

3月12日、「スナッピンきのさき」(城崎観光協会主催)が、JR城崎温泉駅前で開催されました。

これは、城崎温泉街を訪れた観光客に思い出の写真を撮ってもらおうと、カニシーズン(2月と3月の2回、実施しているもので、当日は、先着50組の観光客が、城崎温泉街マスコットの松葉ガニの「ジョーくん」「サキちゃん」、地元の戦士「城崎泉隊オンセンジャー」と一緒に記念撮影し、喜んでいました。

大阪市から友達4人で観光に訪れた亀田茉莉さんは「外湯巡りが楽しかったです。また城崎に来たいと思います」と話していました。



▲JR城崎温泉駅を背景に地元のマスコットらと記念撮影する観光客。写真はそこで手渡された

竹 野

ひなまつりクッキング

親子で、作る楽しさ 食べる喜び体感

3月3日、竹野子育てセンターで、25組の親子が、ひなまつりクッキングをしました。おひなさまとお内裏さまの壁飾りを作り、部屋に飾ってから、すし作りに挑戦です。錦糸卵、菜の花、ニンジンの花・星・ハート型などの具材を、アイデアを凝らして、親子でトッピング。お皿にのせると色とりどりのデコレーションずしの出来上がりです。

全員、おすし一皿ずつをペロリと完食しました。

参加した外国語指導助手のベン・シルさんは「アメリカにひなまつりは無いです。ハッピーひなまつり」とうれしそうでした。



▲説明を聞いてから、一斉にデコレーションずし作りを始める親子

日高

マロニエの里朝市が再びオープン

春になりました 新鮮野菜などがお目見え

3月6日、日高町生活研究グループ連絡協議会による「マロニエの里朝市」が、日高健康福祉センター前広場に再びオープンしました。12月までの毎週金曜日午前9時から午後零時30分まで、地元産の新鮮で安全・安心な野菜や米、そしてもちや味噌などの加工品を販売します。

当日は、オープンを記念して、来場者へ豚汁、混ぜごはん、コーヒーが振る舞われ、旬の野菜、もち、おこわ、花苗などが販売され、にぎわいました。

マロニエの里朝市リーダーの木内玉枝さん（日高町祢布）は「今年も安全・安心な野菜を頑張って作ります」と話していました。



▲豚汁・混ぜごはんなどの振る舞いや、花苗・旬の野菜の販売などでにぎわうマロニエの里朝市

出石

郷土の洋画家 後藤孝三展

ダイナミックな心象画が 心に響く

3月5日から24日までの間、「郷土の洋画家 後藤孝三展」を伊藤清永美術館で開催し、観客から多くの人々を魅了しました。

これは、昨年11月17日、後藤画伯の遺族から油彩画11点とスケッチブック10冊を寄贈いただいたことを記念して開催したものです。

作品の多くは、画伯がこよなく愛した故郷である豊岡の風景や人々を題材に描かれており、昭和20年から40年代のまちの風景や人々の暮らしを伺うことができます。

これらの作品は、市ホームページのバーチャル美術館でも公開しています。ぜひ、ご覧ください。



▲「かんざし飾りの芸者」という作品を食い入るように見つめる観覧者

但東

食育講演会&調理実習

地元の農業を学び 美味しい食材を味わおう

3月7日、食育講演会&調理実習（但東青少年健全育成子育て応援団主催）が合橋地区公民館で行われ、子育て中の方など約50人が参加しました。

講演では、(有)あした代表取締役の霜倉和典さん（但東町坂津）が「農業で育つ心と体」と題して、「人の命と健康は食べ物で支えられ、食べ物（身土不二）は土で育てる。人の命と健康は土そのもの（身土不二）と話されました。

続いて、但東給食センター栄養教諭の井手追陽子さん（出石町町分）指導の下、地元食材を使って料理を作り、美味しいご飯と味噌汁の朝ご飯メニューに、全員舌鼓を打ちました。



▲地元で採れた食材で作った朝ご飯メニューを美味しく食べる子どもたち